



今月のことば 平成21年(2009)11月 <No.39>

悪人正機 (あくにんしょうき)

浄土真宗の大切な言葉に、「悪人正機」というものがあります。「**悪人こそが、阿弥陀如来の救いの目当てである**」という意味です。しかし、この言葉は反発を持って受け止められることがあります。「どうして悪いことをした人が救われるのか？」と……。今月は、この「悪人正機」をわかりやすくとらえたエピソードをご紹介します。

『在家仏教』（2009年7月）の中で、元同朋新聞編集委員の亀井鑛（ひろし）さんが書かれていました。

小学校5年生を教えるベテランの先生。ある日の放課後、二人の子供が教室でけんかしているのを見つけました。その訳を聞くと、お互いに「相手が悪い」と言ってゆずらない。

そこで先生は、「**自分は良くて相手だけが悪いと、本当に言い切れるのか、いっぺん胸に手を当ててよく考えてみる**。そして思いつくことがあったら職員室へ来い」と言って、しばらく時間を与えたそうです。

小一時間後。子供たちは二人で職員室にやってきました。「考えてみたら、自分にもまちがっていた所がありました」と一人が言う。するともう一人も、「自分にも悪いところがありました」と言い、二人で頭を下げたのです。

先生は言いました。

「けんかが終わって良かったな。さっきまでお前たちは『自分は善人だ、自分はまちがっていない』と言ってけんかしていた。ところが今、自分も悪いやつだ、愚かな人間だということに気づかされたら、けんかをやめて二人で先生の前へ頭を下げにやってきた。**善人が二人そろろうとけんかする。悪人が二人**

そろろうと仲良く頭を下げる。これ、不思議だと思わんか。」「はい、不思議です」……。



私たちは知らず知らずのうちに、自分のことを「善人」だと思い込んではいないでしょうか？

この私こそが「悪人」であることに気づいた時、「悪人をこそ救う」という阿弥陀如来の本願が、「**お前を救わずにはおれないんだよ**」とこの私に呼びかける声（南無阿弥陀仏）として聞こえてきます。

